

合格体験記

法学部 法律学科 佐々木優海

・合格した職種

国家一般職（北海道開発局）

・大学4年間のうち、各学年で公務員試験に向けてどのような勉強をしていたか

その前に私がいつから公務員を目指していたのかを明かそう。それは大学に入学する前の高校3年生である。私は、公務員になるためにこの大学の法学部に入ったことを前提に読んでほしい。以下は科目ごとに紹介する。

教養科目

① 数的推理 判断推理

公務員を目指すうえで避けては通れない科目。私は大学1年生の冬に担当のゼミの先生から呼ばれ、面談をした。その時に進路の話になり、私は当時の第一希望裁判所事務官になりたいことを話した。その結果、裁判所事務官は難しいので、1年生の時から数的推理・判断推理を勉強した方がいいというアドバイスもらった。その言葉の通り、2月から図書館に行き、毎日5問ずつ始めた。コロナ禍になって暇になったこともあり、毎日やるのが習慣になった。大学2年生からはLECの学内講座にも入り、講座を受けつつなるべく毎日（バイトを始めて毎日ではできなくなった。）5問ずつ解き、3年の後期からは毎日10から15問ずつ解いていた。国家公務員や国家専門職を受ける方は基礎問題のほかに応用の問題もやった方がいいと思う。解き方、最初は時間を計らずゆっくりやっていった。わからない問題は答えをすぐ見た。解けた問題には○、途中まであっていたり、もう一回やってたら解けそうなものを△、全くわからないものに×を書いていた。ちなみに図形は解けそうなもの以外捨てた。図形苦手なんで。

② 国語・英語

現代文は大学3年の後期から1日3問ずつやっていた。英語は捨てた。意外といけた。

③ 日本史 世界史 地理 法学など文系暗記科目

大学受験で勉強した貯金を生かし、ほとんど勉強していない。法学は専門科目を勉強していればいける。世界史 地理は捨てた。

④ 自然科学（理科系）

無理だった。勉強していない。

⑤ 時事

大学4年の2月から「速攻の時事」という本を読んでいた。あとニュースはなるべく見るようにした。

⑥ 小論文

大学4年生の2月からLECの講座を受け書き始めたよ。国家公務員の小論文は表が出てきて、それを使って書く方式なので、一回は模試などで練習しておいた方がいいよ。ちなみに、私はある模試で小論文の題目が「災害対策をハード面とソフト面の両方の対策を論じろ」的なもので、ハード面とソフト面が何かわからなくて詰んでしまったことがある。その模試では何とか頭を捻ってハード面を長期的、ソフト面を短期的だと思って書いた。あつてはいないが50点はくれた。最低限の語彙はわかるようにしよう。その後すぐ調べたらハード面は建物などの物理的なもの。ソフト面は啓発などの物理的なものではないもののことを指すらしい。他にもマクロ的やミクロ的・カーボンニュートラルなどなどカタカナ的な言葉も覚えておく必要がある。

⑦ その他

その他とは？模試のことである。独学の人も模試は受けておいた方がいい。自分の苦手な問題やどの立ち位置にいるのかわかる。ただ受けるのではなく復習も必ずしよう。私は、模試の問題を書き写し、自分の解答、なぜそれにしたのか。答え、解説を一つのノートにまとめていた。

ここまでの教養科目である。この人数的推理しかやってなくない？
と思うかもしれないが、その通りである。専門科目が忙しすぎて教養にかまっていられないのである。教養科目の詳しい勉強法は教養をしっかりと勉強していたのであろう道庁や道警の合格者のものを読んでほしい。(ごめんなさい)

専門科目

なぜ専門科目が大事なのか それは得点が二倍だからである。教養が1問1点なら専門は1問2点である。なので専門が大事

① 憲法

専門の中でも勉強しやすいとして有名な科目。私もLECの講座を受けるとともに、大学3年の後期から毎日10問くらいずつ解いていた。問題集5周くらいした。自信もあったが本番は5問中3問正解とかなり微妙。それでも裁判所事務官の試験の憲法は8問全問正解だったんです。信じてください。

② 民法

民法はⅠとⅡがあり、全 10 問ある。かなり範囲が広くすべてをやるのは困難なので、出やすいところを重点的に。問題集を 3 周くらい頑張ったが、本番は 5 問正解と微妙な結果に。

③ 行政法

ここまで読んで。この人なんで受かったの？大丈夫？と思うかもしれないがそれを救った科目が行政法である。だって行政法は全問正解だったもん。ありがとう小幡先生。3 年の後期から毎日 10 問ずつやったのである。行政法も出る分野が分かりやすいので、その分野を徹底的にやった。

④ 政治学 行政学 財政学・経済事情

これらは大学 3 年の 12 月から始めた科目である。ちなみに財政学は 1 問しか出ず、経済事情が 4 問出る。財政学は出る分野が同じなので勉強しやすい。経済事情は L E C の講座と時事対策が大切なのだ。政治学と行政学は年によって難易度に差があるのでそこは運である。毎日 10 問ずつやったのに知らん学者や単語が本番でも出てきた。冷静に持っている知識で戦おう。

⑤ ミクロ マクロ

得意な人がいない科目。みんな大嫌いな経済のお話。大学 3 年の後期から勉強を始めたが最後までちんぷんかんぷんであった。私の頭では理解できませんでした。ごめんなさい。本番も取ってないです。

⑥ 国際法

何それっていう科目。お気づきの方もいるかもしれないが、経済を捨てた私は 7 科目しか勉強していない。専門科目は 8 科目だよ ね どうするのという話である。そこで私が考えたのは、一番できそうな科目を選ぶことである。それで選ばれたのが国際法。ちなみに全部 3 にした。1 問だけ当たった。よい子はマネしないでほしい。

⑦ 専門記述

国家一般に専門記述なんてなくない？と思った方正解です。これは番外編。国家専門職を受ける方に向けて書いている。先ほども言った通り私の第一希望は裁判所事務官だった。当然専門記述の勉強もしたのである。

前提として、私が勉強したのは憲法である。そして、この専門記述がもともと得意だった。どのくらい得意かというと、一番好きなテストが民法の橘井先生のテストだった。あの記述を書くのが大好きであり、橘井先生の授業の単位がほぼ 100 点くらい得意なのである。

勉強を始めたのは大学4年の2月から。よく出る内容をピックアップしてもらい、その模範解答を書き写すという作業を始めた。ほとんど書写だった。憲法の五択の問題の勉強もしていたので、記述で出そうな論点はよく見て頭に入れていった。この人裁判所落ちたじゃんって思うかもしれないが安心してほしい。記述はかけた（はず。）面接失敗したんだもん。ちなみに刑法も勉強した。ほとんどの人は必要ないので、今回は割愛します。

以上が各科目の勉強である。数的以外は大学3年の後期から始めることが多い。授業もひと段落するからだ。

当時の勉強のスケジュールは

数的 判断推理 憲法 民法Ⅰ 民法Ⅱ 行政法 政治学 行政学 財政学を5問ずつやる。

速攻の時事を1章読む

現代文を1問解く

だいたい3時間かかるこのメニューを1日2から3回繰り返した。

・公務員試験を受ける上で役に立った大学の講義

公務員対策特別演習は全部出た方がいい。数的とかを授業で学ぶことができる。また、法学検定の知識も役立つから必ず取っておこう。あと、民法や憲法 行政法など授業がある科目は絶対出よう。他の受験生と差がつくチャンスである。

・勉強が辛い時期があったか。またそれをどう乗り越えたか。

この公務員試験勉強中2回発狂するくらいつらかったことがある。

① 道庁の1次試験に落ちたとき

この人道庁落ちたんだって思った？1次試験の倍率1.3のあの道庁の試験である。出来た心地はしなかったが、落ちると思わなかった。忘れもしない6月3日。その日は勉強できず、始めて一睡もできなかった。その後も結構引きずり、5日の国税の試験はボロボロだった。（もちろん落ちた。）これで焦った私は、12日の国家一般まで猛勉強。なんとか国家一般は受かった。落ちててもすぐ切り替えよう。それが大切である。

② 官庁訪問期間

国家一般は一次試験に受かった後官庁訪問というものがある。これが地獄であ

った。全然電話来ないし、内々定がない。8月1日に第一クールに訪問した最後の官庁から「残念ながら・・・」という電話が来たときは2日間泣いた。寝込んだ。その後4日からまた新たに官庁を探し、訪問し開発局に内定をもらうのである。落ちてでも切り替えよう（2回目）

・大学時代もっと取り組んでおけばよかった、勉強しておけばよかったと思うこと
まずゼミについて。私は公務員と何の関係もないゼミに2年生から所属していた。憲法 民法 行政法など関係あるものにすればよかったなと思っている。
次にボランティアについて。私は2年生からボランティアをしようと思っていたが、コロナ禍でできず、できるようになるころには公務員試験の勉強が忙しすぎてそれどころではなかった。やっておいた方がよかったな

逆にやっていてよかったことはサークルである。私はとあるサークルの委員長をしていた。そのサークルはコロナ禍でもオンラインでもなんとか活動を続けていたのでその話は面接でも話せたのでやってよかったと思う。

・面接の内容

国家一般職の面接は他の公務員と比べ、あっさりしている。時間も15分と短く、聞かれることも面接カードに書いていることのみである。面接カードの内容は毎年ほとんど変わらないので、事前に確認しておき、書くことを準備していこう。筆記試験合格後すぐ出さないといけないので、その前に書くことを決めておき、添削してもらおうといい。面接練習は筆記試験合格後から始めた。大学の先生やキャリア支援課の方に協力してもらおう。

・面接対策としてやっておいた方が良かったと感じたこと

各官庁の説明会には必ず参加しよう。その説明会では、質問している人や内容をメモしている官庁もあるので、事前に質問を用意していくことが必要。何回も同じ官庁の説明会に行くと、人事担当の方が自分の名前を憶えてくれる。

また、官庁訪問も実際にはほとんど面接であり、面接カードを書くことも多いので、それぞれの官庁の志望動機も考えておこう。

印象に残った質問

コロナの対策についてどう思いますか（某官庁）

安倍総理の襲撃事件についてどう思いますか（某官庁）（事件の2日後）

など自分の意見を言わせるところもあるので、ただニュースを見るのではなく、自

分ならどうするか、自分の意見をしっかり持つことが大切だと思う。

・就活についてのアドバイス、最後に後輩たちへメッセージ

ここまで、かなり長く読むのが疲れたとおもうが、これで最後なので安心してほしい。公務員試験はとにかく長い。特に国家一般は専門科目を多すぎる。途中で心も折れそうになるが、道庁や道警市役所などに比べ倍率が低く、頑張ったらなりやすいのも国家一般の試験である。専門科目と数的・判断を頑張れば意外といける。筆記さえ受かれば2次では普通に受け答えをすれば合格できる。経済全捨ての私でも受かったのだから、この資料を真剣に読んでいるあなたなら大丈夫であろう。官庁訪問は期間が短く集中するのでスケジュール管理と体調管理が大切である。時々休みながら自分のペースで頑張ってもらいたい。落ちても切り替えよう(3回目)

おまけの質問コーナー

Q1 志願先を全部教えてください

最終合格 国家一般職

1次合格 裁判所事務官 北海道警察

全て不合格 国税専門官 北海道庁 千歳市 名寄市

Q2 いつまでバイトをしていましたか。

大学4年の4月まで。週に2回をやっていた。バイトは社会経験になるのでやっておいた方がいいと思う。

Q3 1日どのくらい勉強していましたか

上記のセットを2から3回やっていたので、6から9時間くらい。9時間が私の勉強できる限界だった。朝5時に起きて、8時まで 9時から12時まで、13時から16時までというような感じ。

Q4 睡眠時間も削らないとだめですか。

めちゃくちゃ寝ていたのだからそこまで削らなくても大丈夫。私は遅くても21時には寝てた。8時間睡眠。健康的

Q5 官庁訪問はどこに行きましたか

7月 検察庁(札幌・函館・旭川) 法務局(札幌・旭川) 行政評価局 公正取引委員会

8月 開発局 陸上自衛隊

これは多い方かもしれない。